みみよりなお知らせ！

第　79　号
令和２年10月15日発行
佐賀県聴覚障害者サポートセンターだより

みみの記念日　３月３日耳の日　６月６日補聴器の日　９月９日人工内耳の日　９月23日手話言語の国際デー

コロナ禍の遠隔での情報保障＝要約筆記の課題等を考える

６月～８月にかけ、主催者が異なるオンラインセミナーを受けました。県内の新型コロナウイルスの感染が６月は落ち着いていて、８月は感染が広がっていた状況でした。落ち着いた状況を受け、８月は依頼が入っていたものの、現実は感染が広がり、決まっていた派遣者も現場には行けないケースも出てきました。これからの準備のために受けたセミナーですが、現実を伴った勉強の機会になりました。要約筆記者養成担当からご報告します。

Ⅱ UD トークオンラインセッション(8/22)

６月に実施した現任研修の続編として「UD トークオンラインセッション」を視聴しました。当事者、支援者がどのように使っているかについての報告でした。「コロナ禍」がキーワードとなっていたように思います。

北海道では、当事者自らが中心となり「コロナの情報を得るため」YouTube に字幕を付けて配信していました。そのバイタリティに驚きました。

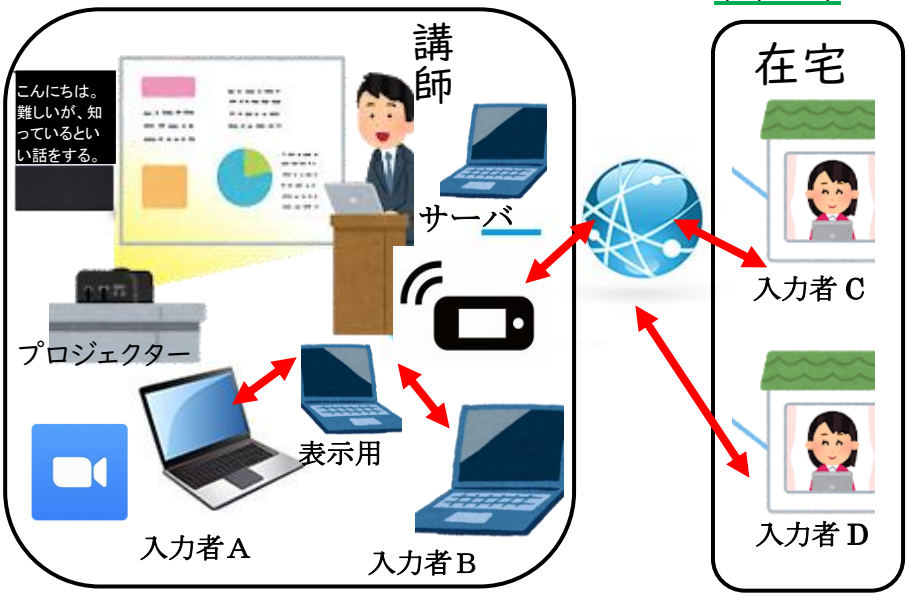
普段、聴覚障害学生にノートテイクをしている学生サークルは、自らテレビ局に字幕配信サービスを売り込み、正式な協力団体になったそうです。センターも地元テレビ局に陳情していますが、なかなか実現しません。実行あるのみなのだと気づかされました。

UD トークを愛用する難聴者が「要約筆記ではだめなんだ」という主旨の発言をし、ショックを受ける人もいました。いろいろな気づきがありました。

Ⅲ文字通研主催　ウィズコロナ時代の文字通訳(8/29)

Web を活用した遠隔情報保障システムの captiOnline について知ることができました。利用者も入力者もあるページにアクセスして利用するので、ソフトのインストールが不要でネットがつながるならどこでも利用できる。コロナ禍で利用が伸びている。ソフトのバージョンもアップされ、音声認識や ZOOM に字幕を入れることもできる。開発者の「連係入力は職人技で、職人にはいい道具が必要」「最高の聴覚障害者支援をするためには、最高の情報保障者支援をしないといけない」、「音声認識は、言い換えを省くことができない」という言葉が響きました。

Ⅰ全要研主催　意思疎通支援事業での遠隔を考える(8/22)



Ⅰのケースで会場の入力者不足に対応した在宅入力者が協力

都会では外出がままならず、難聴者が集まることができず、WEB 会議で文字情報が必要だとは理解できていましたが、遠いところの話のように思っていました。７月の終わりごろから、このテーマがいよいよ身近に迫ってきました。

・ZOOM 会議への字幕付けに利用できる表示専用 IPtalk
・PacketiX を使った IPtalk 遠隔入力（VPN 接続）
・ブラウザで情報保障ができる、見ることもできる WebConnect
・現場入力と自宅入力をつなぐブリッジ機能

便利な機能を知ることができました。派遣現場では Wi-Fi がつながらないところもありますが、センターでの難聴者協会の例会は、VPN 接続で自宅入力の人とともに情報保障ができました。会員が自宅にいながら例会を開けるように、集まることができる今から準備をしていければと思います。会員の意向を大事に、取り組みたいと思います。

たくさんの人が要約筆記や文字通訳に関わって、いいものを作って広めていってほしい。

そして、新しい生活様式に対応できるよう、また私たちの課題を解決できるようにしていきたいと思います。

シリーズ（34）
山口相談医のひと言コメント

音響性聴覚障害について その2

音響性聴覚障害に関連して、Hiden hearing loss と呼ばれる病態が注目されています。前回述べましたように、大きな音にさらされることで聴覚障害、すなわち難聴をきたすことがあります。個人差が大きいので、難聴になる人もいれば、ならない人もいます。あるいは難聴になっても一過性であり、治ってしまうこともあります。

こを、動物実験ですが詳しく調べた研究が幾つかあるそうです。それによりますとネコでは聴覚神経の 80%以上に問題が生じると聴力低下が見られるけれど、それ以下だと低下しないそうです。また、他の報告では、音にさらされた後に聴力が回復している場合でも、聴覚神経の 50%に障害が発生していたそうです。

つまり、聴覚神経に相当の障害があっても、聞こえ方はある程度保たれているということになります。このことから、ヒトにおいても、大きな音にさらされると、聴力検査で正常であっても、隠れた神経障害が存在することが予想されます。

近年、環境音の増加があり、デジタルオーディオプレイヤーなどの普及により、大きな音にさらされる機会が増えています。すぐには影響がなくても長期的には難聴の進行に寄与すると考えられています。ヘッドホンや、イヤフォンの使用にも注意が必要です。

手話通訳者養成講座 Ⅰ・Ⅱ修了式（9 月 20 日）

新型コロナウイルス感染が拡大し社会活動がストップするなど、昨年までとは違う生活スタイルの中で感染予防を徹底しながらの開催となりました。

修了時は受講生、講師共に例年に益した達成感。記憶に残る講座の一つとなり、今後の手話学習の糧になることでしょう。

通訳Ⅰ 修了者数 １１名中１０名

通訳Ⅱ 修了者数 ９名(全員)

巡回聴こえの相談 in 江北町役場

70 歳から 95 歳の、男性１名・女性４名が参加。補聴器を購入したがほとんど使用していない、集音器と補聴器の違いを教えてほしい、どれくらいの聞こえか知りたい、といった相談を受けました。聴力測定を実施、測定後は詳しい結果説明を行いました。ご家族に向けては、環境設定や接し方の工夫を伝えました。(9 月 16 日)

編集後記：
栗がほくほくとおいしい季節です。（m）

巡回聞こえの相談≫ 要予約
11 月 17 日(火) 10 時～15 時 有田町生涯学習センター
12 月 16 日(水) 10 時～15 時 川副支所

聴こえのセミナー≫ 要予約
11 月 1 日(日) 13 時 30 分～15 時
『より良い聞こえのための生活用具 講演・体験会』
～聴覚障害者に役立つ生活用具とは～
来客を光や振動で知らせたり、声を文字化する機器などを紹介します。
それぞれの機器に触れて体験もできます。

日曜教室≫
難聴者向け 11 月 8 日(日) 11 時～12 時 『葉隠』
講師： 佐賀城本丸歴史館 藤井祐介学芸員
ろう者向け 11 月 15 日(日) 10 時～12 時 『今年のサガン鳥栖』
講師： 佐賀新聞社 谷口大輔多久・小城支局長

佐賀県聴覚障害者サポートセンター
〒840-0826 佐賀市白山二丁目 1-12（佐賀商工ビル４階）
TEL：0952－40－7700 FAX：0952－40－7705
メールアドレス：info@saga-mimisapo.jp
ホームページアドレス：http://saga-mimisapo.jp/

＜開館時間＞
9：30 ～ 18：00
＜閉館日＞
毎週月曜日、祝日、年末年始